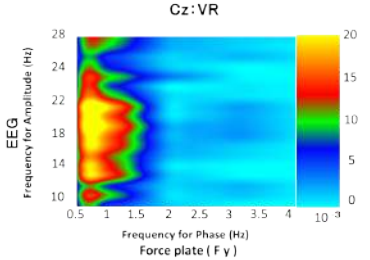


所属・職位	福祉健康科学部 福祉健康科学科 理学療法コース・講師	
氏名	川上 健二 (Kawakami Kenji)	
取得学位	修士 (医科学)、大分大学、2017年3月	
SDGs目標	 	

研究分野	リハビリテーション科学、理学療法学
研究キーワード	転倒、筋電図、脳波、筋、徒手療法

研究内容	<p>●高齢者を対象に転倒リスクのバイオマーカーを検出する研究</p> <p>我が国では現在、健康寿命の延伸に向けた取り組みが多く行われている。健康寿命を短くする一因に「転倒による骨折」があり、転倒を予防することが大きな課題となっている。そこで、重心動揺と筋電図および脳波の関連性を解析し、新しい転倒リスクのバイオマーカーを見出すことを目的に研究を行っている。方法は、若年健常者群と健康な高齢者群に対し、開眼時、閉眼時および最近リハビリテーション分野でも用いられるようになってきたVRゴーグルを使用した歩行体験時の下肢筋電図と脳波および足圧中心を同時に計測し解析を行っている。</p>	 
	<p>●疲労した筋の運動機能を向上させる定量的機械的圧刺激について研究</p> <p>「筋疲労」とは運動時に必要な筋力やそれを発揮するための能力が低下した状態をいい、こうした筋機能低下に対する理学療法として、臨床では徒手的に圧刺激を与える方法が用いられてきた。しかし、その刺激強度についてはセラピストの経験に委ねられるためばらつきが多く、適切な刺激強度については明らかになっていない。そこで、徒手の圧刺激を模擬した定量的圧刺激装置を作製し、前腕筋への圧刺激が運動機能と筋収縮様式へ及ぼす影響をボタン押し課題を用いて筋電図周波数解析を行っている。</p>	

研究業績・アピールポイント	<p>●転倒リスクのバイオマーカーを検出する研究については、2019年から科学研究費助成事業の助成を受けて実施している。現在、若年健常者に関する論文を作成中である。(右の上図)</p>	
	<p>●論文</p> <ol style="list-style-type: none"> 2014年、人工膝関節置換術後の膝蓋骨骨折後の理学療法 2016年、疲労した筋に対する機械的圧刺激が運動機能向上に及ぼす影響 (右の下図) <p>●著書</p> <ol style="list-style-type: none"> 2021年、可動域練習, 筋力増強訓練の原理と適応, 応用 	

- 役員
- 大学院教育学研究科 教育学部
- 経済学部
- 医学部
- 医学部附属病院
- 理工学部
- 福祉健康科学部
- その他学内施設等